

沖縄戦の朗読劇続ける女優 谷 英美さん(50)

輝く

たに・えみ 1965年生まれ。曽根中世監督「夜をぶつとばせ」で映画デビュー。東京都出身、埼玉県在住。



芝居で考えるきっかけに

沖縄戦で顔に傷を負った女性をモデルにした朗読劇「顔」沖縄戦を生き抜いた女の半生」を慰霊の日の23日から、初めて沖縄で上演する。

17歳で女優デビュー。童謡詩人・金子みすゞを題材にした一人芝居をしていた時、沖縄の演題を求められて出合ったのが沖縄戦の「集団自決」(強制集団死)をテーマにした作品「ウンジュよ」だった。「30すぎの大人なのに沖縄戦について何も知らなかったのが衝撃だった。私のように、

沖縄の苦しみを知らない人は多いはずだ。以来、埼玉を中心に沖縄戦の朗読劇を続けてきた。
2010年に埼玉県の丸美美術館で「顔」のモデルとなる新垣文子さん(83)と出会った。戦場を逃げまどつて米軍の爆弾の破片を受け「顔の真ん中にサクロのような穴があき」、戦後も手術を繰り返したという壮絶な体験を聞き、足跡をたどつて新垣さんと共に沖縄を旅した。
「沖縄生まれでもなく、戦争を知らない私が沖縄戦を語つていいのか、最初は躊躇した」と言つたが、「どうしたら戦争をなくせるか、芝居を通して若い人たちが考えるきっかけになればいい」と演じ続ける。23日に西原町の那覇パブテラ教会、25日に県男女共同参画センターで公演する。問い合わせは090(6147)4160(佐藤)。



6/18
新垣文子さんは、沖縄本島南部を家族で逃げ回つていた1945年6月13日、砲弾の破片が顔を直撃。鼻から口にかけて大きく肉がそけ落ち、さくろのような穴が開いた。父は必死になつて新垣さんを抱き上げ野戦病院に運んだものの、寝かされた新垣さんの横で軍医がこの

沖縄戦70年 体験公表

新垣文子さん(83) 埼玉県在住

沖縄戦70年

新垣さんは、沖縄本島南部を家族で逃げ回つていた1945年6月13日、砲弾の破片が顔を直撃。鼻から口にかけて大きく肉がそけ落ち、さくろのような穴が開いた。父は必死になつて新垣さんを抱き上げ野戦病院に運んだものの、寝かされた新垣さんの横で軍医がこの

沖縄戦で顔に大きな傷を負い、傷痕を抱えながら戦後70年がたち、これまで公に語つてこなかった自身の体験を伝え、残そうと動きだした女性がいる。埼玉県に住む新垣文子さん(83)。現在の安全保障法制の議論などを聞くにつけ「戦争に巻き込まれるのではない。か。生かされた身として何かしなければ」との焦りが心を覆う。「恥ずかしがつてはいられない。突き動かされるように、70年の年月を経て自身の体験を語り始めた。

安保法懸念「語らねば」

半生ができた。昨年(2014年)から埼玉県内を中心に公演。6月23日と25日には初めて沖縄で上演した。新垣さんも谷さんの朗読劇の舞台に立ち合うことも。新垣さんは、自身の体験が語られることについて「一人でも多くの人が知ることができて、戦争の悲惨さ、平和の尊さが伝われればいい」と話す。谷さんは「少しでも多くの人に新垣さんの体験を伝え、平和の尊さを感じてほしい」と新垣さんから託された思いを胸に舞台上に臨む。(大城和智子)

沖縄の新聞社、琉球新報に2回にわたって、大きく取り上げられました。

<沖縄料理・カルチャー教室・ライブ> カフェギャラリー南風(みなかぜ) 蔵の家

さいたま市中央区本町西 2-2-24
JR 埼京線 与野本町駅徒歩7分
与野公園近くサイシン与野支店隣り
★お申込み&お問い合わせは
電話&FAX048-764-8850
090-4600-1027(山田)
Chizuko0913@aol.com



カフェギャラリー南風・店内/沖縄そば・南風御膳

切り取り
谷 英美 朗読劇 参加 申込書

お名前	ご住所	電話&メール	領収書
			金・1500円
			カフェギャラリー南風